

1. 教育の責任

本科目では、情報を活用する能力を身に付けさせることを目標として、就中、ワード・エクセル・パワーポイントの基礎的なスキルの定着を目途に展開している。また、本科目は「教養・資格に関する科目」として位置づけられており、本学科の「幅広い教養と専門的知識・技能を身に付け、主体的な職業ビジョンや広い専門的視野を身に付け、地域の未来を創造していく力を修得する」という学習成果と関連している。学習成果の評価項目としての①「建学の精神に則り、社会人・職業人としての必要な基本的生活習慣や態度を身に付けている」⑤「利用者の状態や状況をみて、その場に応じた適切な行動がとれる」の部分と特に関連している。

2. 教育の実施における理念

今日、介護現場においては基礎的な情報処理技術に併せて、タブレット端末からも記録を行い、利用者の見守りや排泄予測に活用している施設などがある。ICTを駆使した健康管理機器も導入されており、テクノロジーとの融合は今後ますます進むであろう。学生が最新の情報技術に習熟することは将来介護福祉士として活躍する際に、膨大な記録業務から解放され、利用者へのより豊かな支援に繋げられる可能性を秘めており、今後は加速度的にこの領域の研究が進む。教授する側にも常にその内容のアップデートが求められる。

3. 教育の方法

前期はネットリテラシーとワードを学び、後期の本科目では、ネットリテラシーとエクセル・パワーポイントを学ぶ。原則、毎回練習問題と課題作成をすることで技能を身につけるようにしている。評価方法は毎回の課題と理解度チェックテストである。

4. 教育の成果

学生による到達度評価（授業アンケートなどによる

評価結果）昨年は「とても当てはまる」が17%、「まあまあ当てはまる」も28%で、合わせて45%が当てはまると答えた。本年は「とても当てはまる」が29%、「まあまあ当てはまる」が41%で、合わせて70%が当てはまると答えた。例年は前期に比べて後期の到達度のポイントが低く、特にエクセルを苦手としている学生が多数いた。また、入力スピードの差が激しく、最後までこの差が埋まらなかった。しかし、本年度は昨年と比べて25%上昇し70%となった。日本語の基礎的な能力が学習に直接影響しているかと思われる。テキストの内容を理解することや、説明をしっかりと聞く態度など、例年に比べて非常に高かったように思われる。以前は習熟度別にクラスを分けることも考えたが今年はこの限りではなかった。

○学生の満足度（授業アンケートの評価結果）
総合評価の平均値＝（3.78）

一昨年度は3.85、昨年は3.78、本年度は3.65と微減。人数が増えて2教室で進行する上に、習熟度にバラつきがあり、対応が困難であったことは否めないが課題の提出状況は総じて良かった。ポイントが低い理由に、アンケートの回収率も関係があると考え。今回は確実に実施してもらえるように工夫する。自由記述ではポジティブな意見が多いが、受講生の能力に応じた内容の展開が求められる。

5. 目標

授業相互評価ではコメントで、「テキストの内容を十分に理解しており、ほぼすべての学生が内容を理解しているようであった。パソコンの習熟に驚いた」とのご感想を頂いた。本年度のクラスは日本語の能力の高い学生が入学の時点である程度選抜されており、この影響が大きかったかと思われる。しかし、依然としてパソコンのスキルは二極化している状態は続いており「全くわからない学生が一からわかる」という事を常に意識し、またある程度そのや

り方をマニュアル化してしまうということも大事ではないかと考える。また、今後については成績不良の学生に対してフォローアップ課題等を課し、演習の課題は厳選してより効果的な内容となるように心掛けたい。授業改善取組においてグループの井手教授、元村准教授より頂いたコメントなどを取り入れて改善を進めたい。